

# 首里城復興全体展示・公開計画

令和3年3月

株式会社 **乃村工藝社**

●首里城の位置づけの変遷



背景・経緯から、様々な声を踏まえて「見せる復興」の目的を定める必要がある。

「見せる復興」を通じて、皆にとっての首里城が何なのか？ について再認識してもらうことが大切ではないか。  
 「令和の復興」では、首里城そのものの再建だけでなく、沖縄の誇りや想い、親しみを育み、アイデンティティを醸成する復元・復興が求められるのではないか。

これまでの歩み・人々の思いをふまえて、参画型の復元への取組みが求められる段階となった。

●「首里城復興全体展示・公開計画」の目的

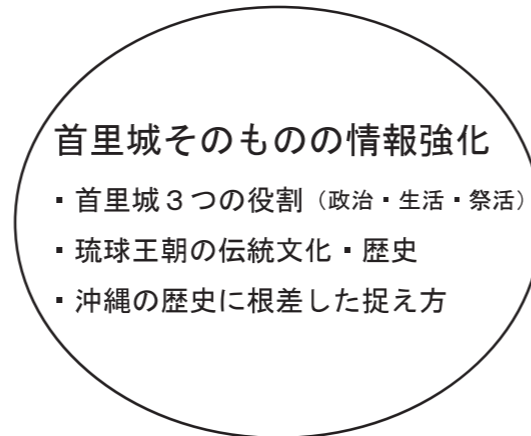
首里城の復元・復興に向けて、首里城周辺の地域住民や県民、国内外に暮らす沖縄にルーツを持つ人、観光客、復元事業の関係者など様々な主体の想いを紡ぎながら、令和元年10月31日の火災の記憶、現場で始まる復元の姿、首里城が有する歴史文化を伝えるとともに、首里城の復元・復興に向けた様々な行催事等を行うことを通して、沖縄のアイデンティティ・シンボルである首里城の「令和の復興」を目指す。

●基本方針・取組方針

平成の復元当初より継続される課題

+

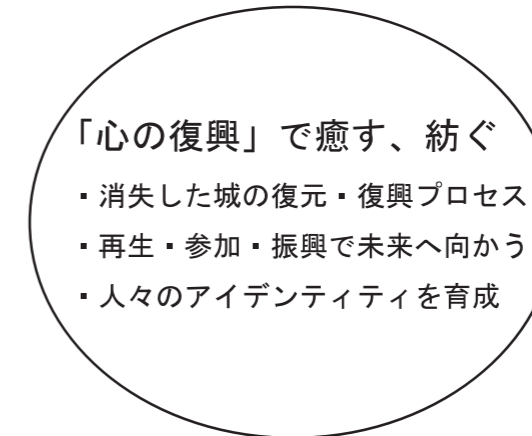
消失をきっかけに出てきた課題



2つの課題に取り組む



「見せる復興」



3つの基本方針

- 1：火災による首里城消失という悲劇を乗り越え、復元・復興していく姿を伝える。
- 2：沖縄のシンボルである首里城が守り継ぐ琉球文化や伝統文化を伝える。
- 3：幾多の困難（戦禍等）を乗り越えてきた首里城の歴史を振り返り、未来の新たな姿を伝える。

5つの取組方針

①ストーリーの構築

- ・「復元・復興」「歴史・文化」の2視点をバランスよく配分した展開とする。

「復元・復興」：火災から多方面の取組で首里城が蘇るプロセスや新情報を更新・提供する。匠の技や人々の想いも語る。

また、中城群や円覚寺等、公園内外の他の復元事業も併せたストーリーの構築を行う。

「歴史・文化」：失われた城内空間（政治・生活）を中心に、歴史・文化の基本情報を補完するストーリーを追加する。

工事の進捗にあわせてより深い情報を追加し、首里城公園全体への関心を高める。

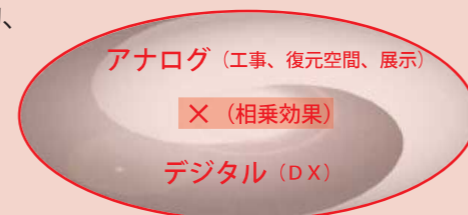
また、世界遺産等の文化財を有する公園として「文化財の保存・活用」にも資するストーリーを構築する。

②工事進捗に合わせた展開（首里城復元まで）

各フェーズの進捗に合わせて、工事情報を常に変化・更新させながら、現場見学での展示やHP等のオフサイトでの情報発信に取り組む。

③首里城らしいDX（デジタルトランスフォーメーション）を実現

- ・アナログとデジタルの各特性を活かしつつ、それらを融合させて相乗効果を得る。展開により首里城らしいDX（デジタルトランスフォーメーション）を実現する。
- ・アナログ特性：本物のリアリティや風景や実物、人に触れ、実感できる。
- ・デジタル特性：モノが持つ背景情報を集積、時空を超えて視覚化できる。



④開かれた復興をめざす

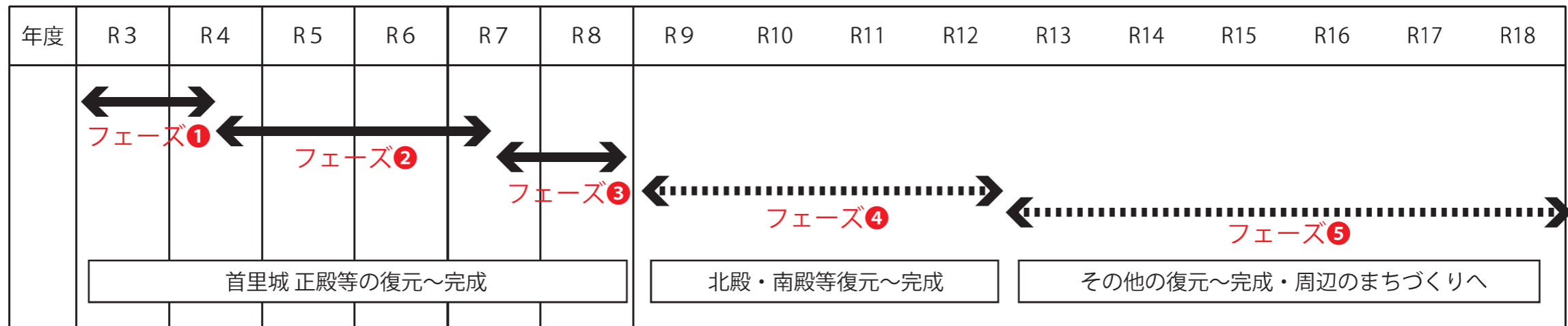
様々な主体（首里城周辺の地域住民や県民、国内外に暮らす沖縄にルーツを持つ人、観光客、復元事業の関係者等）が多様な方法（ボランティア・イベント参加、民間活用、産学官連携等）で参画しやすい、開かれた復興を目指す。

⑤コロナ禍対策で安全・快適に見せる

コロナ禍で得た知見や工夫、来館者要望を革新の機会とらえ、公園サービスにおけるニューノーマルとして定着させていく。

- ・通路上のフィジカルディスタンスを確保
- ・デッキ上の出入口で人数上限を越えない調整
- ・ビューポイントに可能な範囲で滞留スペース確保
- ・運営面でもフォローし対応

●首里城全体の復元プロセスに基づいた各フェーズの構成とねらい



フェーズ①

見学通路、原寸場・木材倉庫整備まで

復元・復興

「見せる復興」への認知PRと正殿工事への期待感醸成。

歴史・文化

火災で欠損した御庭の概要を中心に伝え、首里城の魅力アップを図る

フェーズ②

素屋根内での、正殿の本体工事の期間中

工事プロセスにそって、正殿本体工事の伝統の技を余すところなく現場公開。定期的に情報を更新し、常に感動を共有。

工事の進捗に合わせ、御庭、正殿、正殿の各部屋の役割や往時の様子等、概要からより深い情報へと、よりイメージや関心が高まる手法で伝える。

フェーズ③

素屋根や木材倉庫等の撤去、正殿完成。

プロセスを振り返り、正殿完成の喜びを分かち合う。次工事への期待感醸成。

御庭エリア全体、整備された正殿の内部等、より深める内容を伝える。

フェーズ④

北殿・南殿の復元

復元・復興

復元エリアの拡充と現場公開。完成エリアとの連携で復興の相乗効果を高める。

歴史・文化

復元の進捗状況に合わせて歴史・文化情報を発信

フェーズ⑤

首里城復元完了

首里城全体復元の喜びを分かち合う。周辺エリアのまちづくりと連携し、首里城との相乗効果で未来へとつなぐアイデンティティを育成。

復元の進捗状況に合わせて歴史・文化情報を発信

●「見せる復興」における展示ツール・コンテンツの概要

以下、復興に用いる3ツール（展示・イベント・情報発信）により、フェーズのねらいにそったコンテンツを展開する

展示

以下、工事進捗に合わせてアナログ・デジタル各ツールをうまく融合させ、相乗効果を高める。

- 展示・サイン（アナログ）  
定期的に展示（グラフィック、映像、サイン）等を情報更新、次への期待感、再来動機を高める。
- ガイドツール他（デジタル）  
現場見学を分り易く楽しませるために、5G等の技術革新もふまえたガイドツール（携帯端末やモバイルアプリ）のAIやAR、VR等を段階的に充実



平城宮跡復原情報館展示

イベント

以下、現場公開・復興関連イベントの定期的な開催に加えて、沖縄県等が主催するその他のイベントとの連携を間口を広げて模索し、首里城の世界観をより魅力的に伝える。

- 現場公開イベント  
木曳祭り、上棟式など、建築催事を契機に定期的に公開催しを実施。県や市町村とも連携する。
- 復興関連イベント  
復元・復興に関連した講演会やシンポジウムの開催等を行う。
- その他イベント
  - ・公園内で開催する通常の公園イベント
  - ・沖縄県等が主催するウチナンチュ世界大会、本土復帰50周年記念事業などの行催事や、公園外で開催されるその他行催事。



平城宮跡南門木曳祭



平城宮跡公開イベント（講演会）

情報発信

以下、ホームページ、広報面から「見せる復興」に取り組む

- ホームページ等  
SNSなどの発信機能を強化、5Gなどの整備環境を活かしたアーカイブ機能（「平成の復元」に関する記録も含む）や世界のファンが集う交流コンテンツを充実。
- 広報  
「見せる復興」のVI（ビジュアルアイデンティティ）を整備し、長期のプロジェクトを一定の品質で伝える。



首里城ホームページ

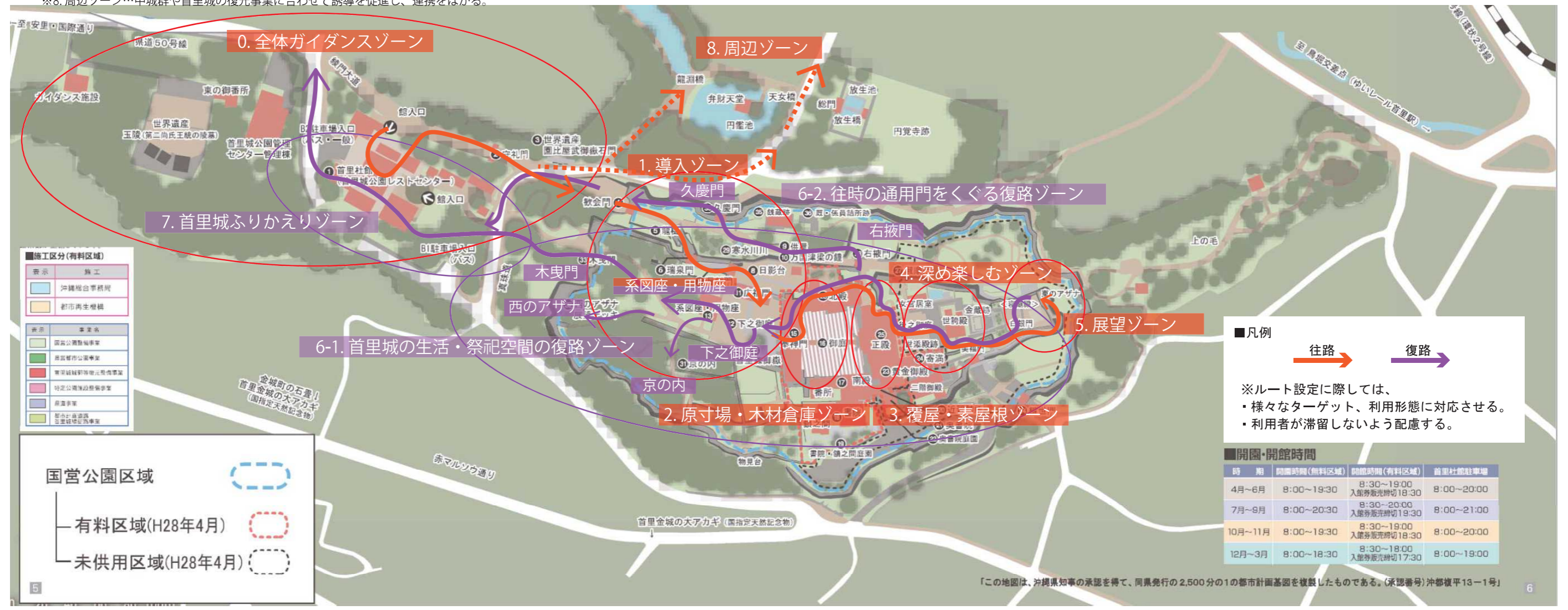


平城宮跡ロゴマニュアル

※VIとは…ロゴ、シンボルマーク、ブランドカラー、キャッチコピーなどに代表される視覚的要素の統一を行い、ブランドが持つコンセプトをビジュアルとして表現すること。

県営都市公園	国営公園（無料区域）	国営公園（有料区域／復元工事エリア）					
<p>①期待感：興味をもち、気持ちが高まる</p> <p>●再来の期待感、まちへの誘い（復路）</p> <p>●首里杜館 B1階ビジュアルロビー：見学の始点となる場 1階情報展示室：見学の終点となる場</p>	<p>●各施設の全体ストーリー上の役割に応じた、段階的な展示・ガイド（徐々に深化する情報）を提供（往路）</p> <p>●守礼門～広福門 ●系図座・用物座 ●大龍柱補修展示室 ●奉神門</p>	<p>●御庭</p>	<p>●覆屋</p>	<p>●世誇殿 歴史文化や奥の世界を紹介する場</p>	<p>●復興展示室 復興・復元の更新情報、進行状況を発信する場</p>	<p>●女官居室 首里城をおさらいし、買い物や食を楽しむ場</p>	<p>●東のアザナ</p>
<p>0. 全体ガイダンスゾーン</p> <p>復元 公園全体の情報、見学ルートに加え、「見せる復興」の仕組みや見所を一目でアピールする</p> <p>歴史文化 見学前に、首里城全体の世界観を一望する場 首里城ストーリーの始まりを感じさせる</p>	<p>1. 導入ゾーン</p> <p>工事見学に必要な事前情報を提供</p>	<p>2. 原寸場・木材倉庫ゾーン</p> <p>原寸場、木材倉庫見学等を楽しませる情報を提供</p>	<p>3. 覆屋・素屋根ゾーン</p> <p>覆屋・素屋根見学等を楽しませる情報を提供</p>	<p>4. 深め楽しむゾーン</p> <p>歴史文化に触れる、復興を実感する、買う、食す等多様な「見せる復興」を楽しませ、再来園に誘う</p> <p>欠損した、首里城【生活・儀礼空間】の“奥の世界”の役割や往時の生活を補完するイメージや情報を提供</p>		<p>5. 展望ゾーン</p> <p>首里城全体を望みながら振り返る</p>	
<p>7. 首里城ふりかえりゾーン</p> <p>未来の公園全体を感じさせながら、見学のふりかえりをし、まちに誘う</p>	<p>6-1. 首里城の生活・祭祀空間のゾーン（京の内・系図座・西のアザナ・木曳門など）</p> <p>車いす・ベビーカーの方も通りやすいルート。火災被害に遭わなかった祭祀空間を中心に、琉球王朝のルーツ、歴史文化、新たな魅力を発見してもらう復路とする。</p>		<p>6-2. 往時の通用門をくぐる復路ゾーン（右掖門・銭蔵跡・久慶門・継世門など）</p> <p>往時の御内原からの通用門を通るルート。往時の人になったつもりで城内を歩ける。銭蔵跡に残る泡盛の文化に触れたり、城の奥まで足を延ばす等、深く楽しめる復路とする。</p>				

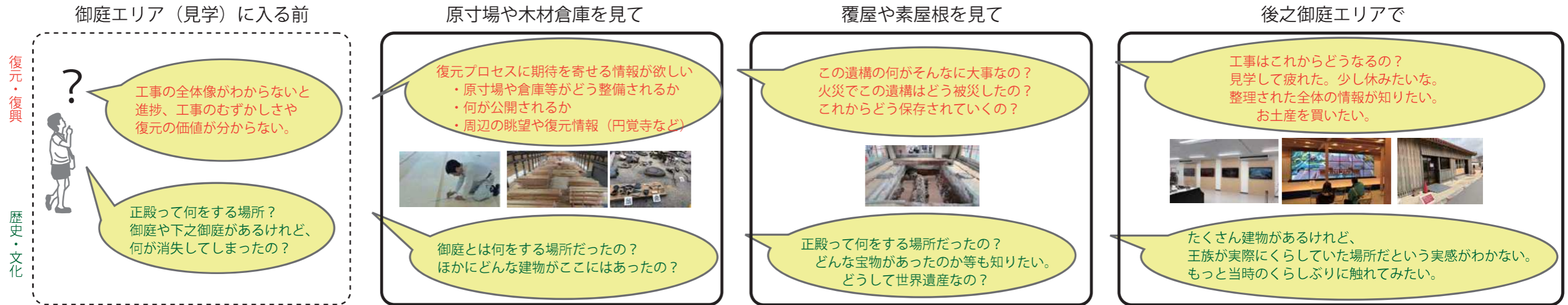
※8. 周辺ゾーン…中城群や首里城の復元事業に合わせて誘導を促進し、連携をはかる。



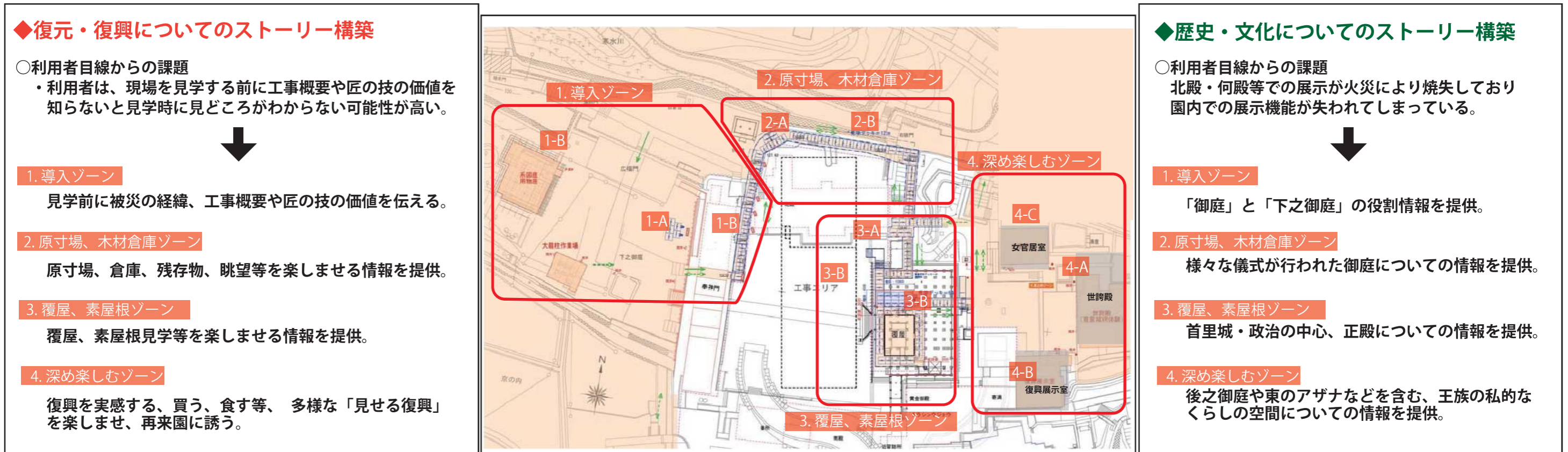
年度	R 3年	R 4年	R 5年	R 6年	R 7年	R 8年	R 9年以降	
<b>工事工程</b> 工事番号	<b>原寸場・木材倉庫</b> 見学通路工事 6月～9月 0-6・7 木材倉庫・原寸場工事開始、完了 10月～3月 1-1		<b>素屋根⇒正殿工事</b> 4月～9月 1-2 10月～3月 1-3		<b>正殿本体工事</b> 4月～3月 1-4 4月～3月 1-5		木材倉庫、素屋根解体撤去 4月～11月 1-6 12月～3月 1-7 御庭・後之御庭工事 3月～ 1-8 正殿復元整備完了 R8年後半 1-9	
<b>展 示</b>	<b>第1フェーズ</b> 「見せる復興」認知PRと本体工事への期待感醸成 展示サイン等 ・見学通路等展示 ・復興展示室での展示 原寸場・倉庫外観各種サイン工事 デジタルガイド AR・AIが案内する 「AIガイド端末、アプリ」導入、復興への興味、期待感を高める		<b>第2フェーズ</b> 本体工事伝統の技を、木、瓦、石、建具、装飾、塗装工事など工事プロセスにそって、余すところなく現場を公開し、感動を共有 ・素屋根1・2・3F展示 ・復興展示室での展示 工事進捗に合わせて、コンテンツの定期更新、各種サイン工事 AR、VR、MRを順次導入し、見学価値向上 「AIガイド端末、アプリ」最新の情報更新と併せて、個性あふれるAIガイドの種類を増やし現場公開の見学価値や首里城の歴史文化への関心を高める			<b>第3フェーズ</b> 正殿の魅力や工事プロセスの振り返り、北殿、南殿工事への期待感を醸成 ・素屋根が取り除かれた正殿に関する展示 ・復興展示室での展示 完成の姿とアーカイブを楽しむ 「AIガイド端末、アプリ」完成時の姿と工事プロセスが同時に楽しめるコンテンツを充実		
	<b>イ ベ ント</b>	工事のはじまり、準備、本体工事への期待感醸成 現場公開 ・常時公開 ・特別公開 ・見学イベント（事前予約制） 復興関連 ・工事進捗に合わせたその他企画イベント（世誇殿） その他イベント ・園内通常イベント ・園外その他行催事		建築催事を契機に、定期的に公開催しを実施。首里城+aの価値や世界観を広い視野で伝えるため沖縄県、市や関連イベントとも連携し、効果を高める ・各種催し ・特別公開（木曳式・起式を含む）※特別公開は年4回程度 ・各種催し ・各種催し ・特別公開（立柱式を含む）※特別公開は年4回程度 ・各種催し ・各種催し ・各種催し ・各種催し ・各種催し ・各種催し			正殿の完成を関係各所とつなぎ共に祝う ・各種催し ・特別公開 ※特別公開は年4回程度 ・各種催し ・各種催し ・各種催し ・各種催し	
<b>情 報 発 信</b>		「見せる復興」のイメージを統一HPをリニューアル VIを制定、PR強化 SNS発信等強化 県、市連携強化 オンサイト・オフサイト各情報の発信バランス 主要エリア工事中は首里城周辺・オフサイトの魅力にも気づいていただく期間とし、周辺情報発信にも力点を置く 「平成の復元」に関する記録のアーカイブ構築・公開		復興進捗に伴い、歴史文化・イベントの発信で集う、交流コンテンツの充実 5Gの整備環境を活かし、国内外のウチナーンチュ、観光客、ファン、その他様々な立場の方々が集い楽しめる交流コンテンツの整備 工事進捗に伴い、首里城・オンサイトの情報発信に力点を置いていく。完成に近づくにつれ、オンサイト・オフサイト両方の魅力を高めていく。			アーカイブコンテンツの充実 プロセスの振り返り アーカイブコンテンツの充実	

令和8年の正殿完成に向けて、御庭エリアが復元の現場となり、工事進捗に併せて時々刻々と変化していくことから、ゾーン1～4の展示方針について整理する。

### ●利用者の目線（イメージ）

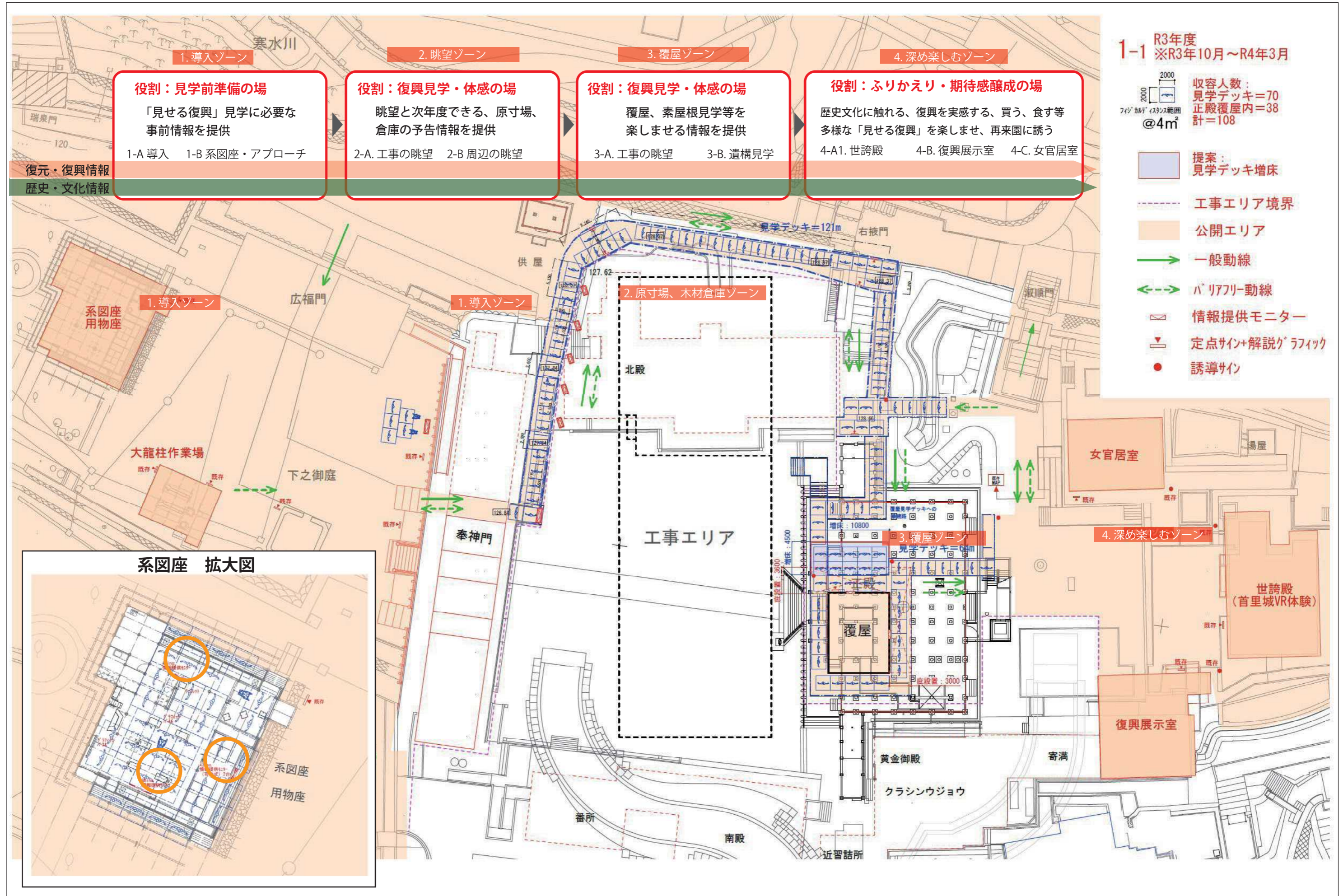


### ●ゾーン1～4の展示方針



※見学通路に設置に際しては、利用者が滞留しないよう幅員等に配慮する。





1. 導入ゾーン

●提供コンテンツ

1-A 導入

- ・被災の経緯
- ・工事予告・復興プロセス
- ・残存物の情報、大龍柱の補修情報など

1-B 系図座・アプローチ

- ・工事のプロセス (3フェーズ)
- ・関わる人々の想い

- 歴史文化
- ・御庭に入る前の下之御庭の役割の違い
- ・奉神門の中、御庭の特別な空間とは

復興の見学に必要な情報を事前に提供し、より充実した見学をしてもらうための場

導入の事例



※写真は展示イメージ

1-A 導入

見学に便利なアプリ情報やそれに伴う準備について、サイネージ映像で紹介

系図座での見学前の情報提供



1-B 系図座・アプローチ

アプローチと同じ情報、復興工事と「御庭」空間についての予備知識を提供

アプローチでの見学前の情報提供



1-B 系図座・アプローチ

連続するサイネージ映像で、復興工事と「御庭」空間についての予備知識を提供



※図・写真は展示イメージ

1-B アプローチ

工事プロセスをイメージしやすい、仮囲いへのグラフィックの一例

写真：姫路城

2. 原寸場・木材倉庫ゾーン

●提供コンテンツ

2-A. 工事の眺望

- ・工事の予告
- ・原寸場・木材倉庫
- ・正殿の素屋根工事

2-B 周辺の眺望

- ・現在の眺望
- ・円鑑池、円覚寺のある眺望

- ・政治の中心、御庭という特別な空間の役割
- ・琉球王府の町並み、円覚寺等のある眺望

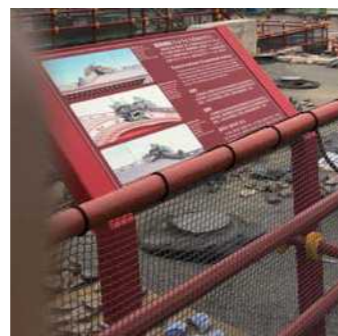


通路・たまりの空間に応じた手法で、眺望情報、今後できる工事建物の予告情報を提供。また、更地だからこそ伝えられる、御庭内空間の構成や場所の役割などを伝える。



※写真は展示イメージ

翌年整備される、原寸場、木材倉庫の映像が携帯端末からARで見える



眺望や見学ポイントを紹介するグラフィック

3. 覆屋ゾーン

●提供コンテンツ

3-A. 眺望

- ・過去5回の火災の軌跡
- ・素屋根工事の予告

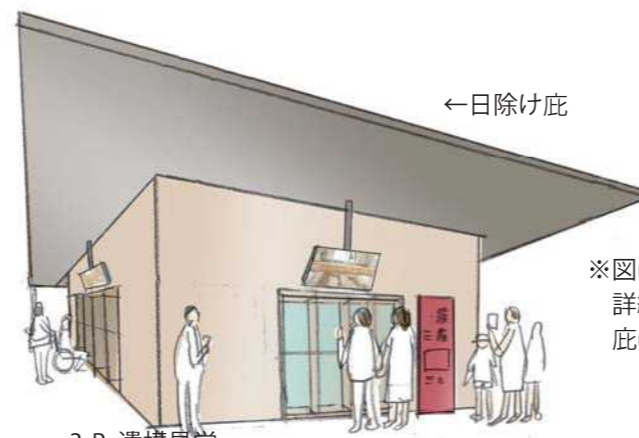
3-B. 遺構見学

- ・今回の火災で被災した正殿遺構の保護処置

- ・政治の表舞台である正殿の基本構造や役割を解説
- ・世界遺産としての遺構の価値



この時にしか見られない遺構 (世界遺産) の価値や見どころ、眺望を楽しませる情報を提供する



←日除け庇

※図は現場のイメージ。詳細の構造等は今後検討。庇はオーニング等を建築にて検討中。

3-B. 遺構見学

奇跡的に受け継がれた正殿遺構の価値をサイネージ映像で紹介

4. 深め楽しむゾーン

●提供コンテンツ

4-A. 世誇殿

- ・首里城 VR 体験
- ・首里城正殿から見る琉球王国の姿
- ・後之御庭の役割

4-B. 復興展示室

- ・火災後の復興のあゆみ
- ・焼失前の正殿
- ・残存物展示
- ・ショップ

4-C. 女官居室

- ・休憩ショップ
- ・呈茶サービス
- ・イートイン

<各施設の役割>

4-A. 世誇殿

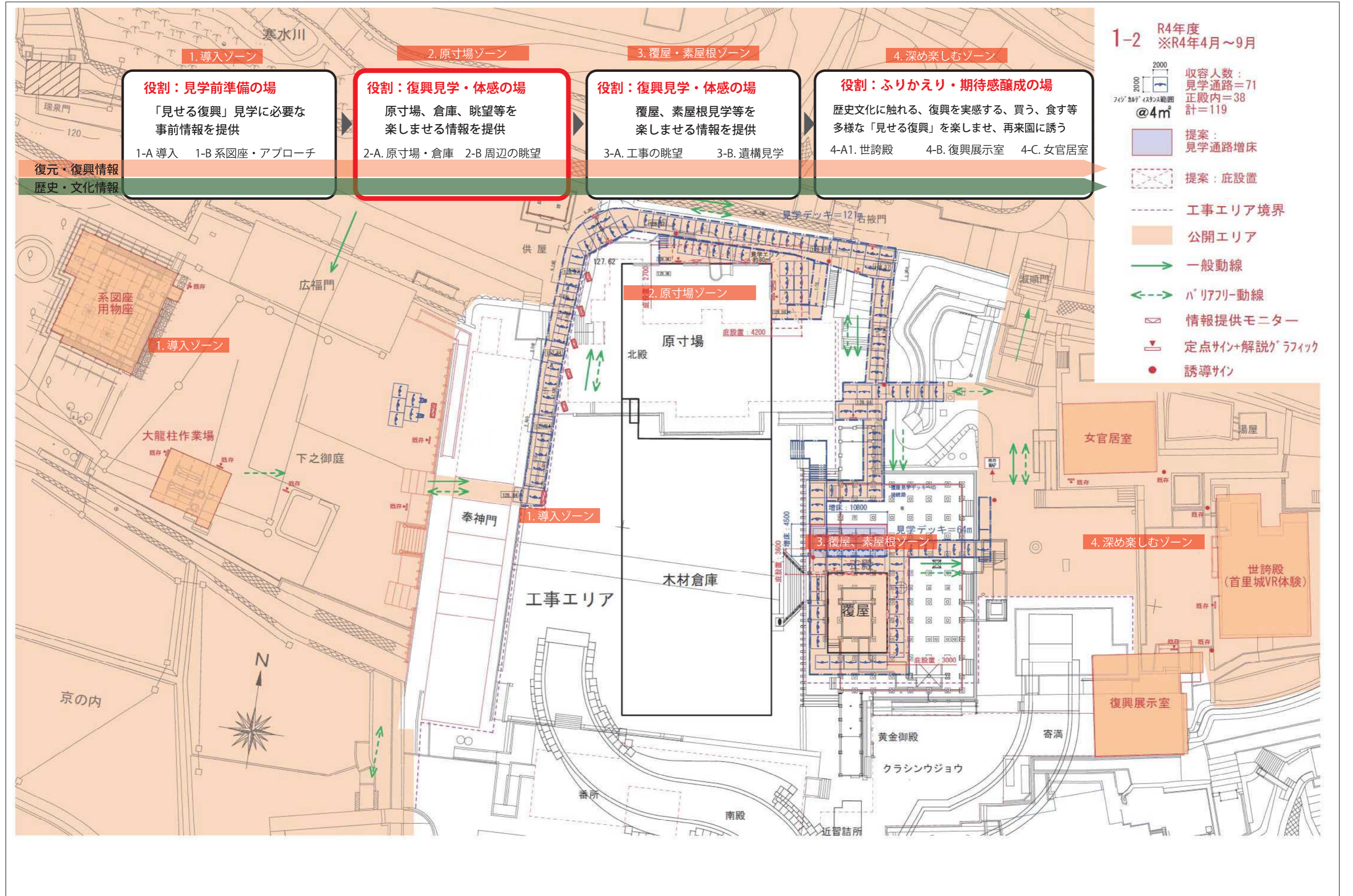
2つのテーマで発信  
歴史・文化関係の企画展や後之御庭についての情報、VR体験で復興復元の過程情報などを発信する

4-B. 復興展示室

復元・復興情報を中心に、火災からの復興のあゆみや工事の最新情報を伝える。また、残存物を厳選し、展示替えをしながらストーリーとして見てもらう

4-C. 女官居室

見学の終点としての役割も担えるよう、休憩・飲食・物販機能を備える



1. 導入ゾーン

- 提供コンテンツ
- 1-A 導入**
  - ・被災の経緯
  - ・復興のプロセス
  - ・大龍柱の補修情報など
- 1-B 系図座・アプローチ**
  - ・工事のプロセス (3フェーズ)
  - ・関わる人々の想い
- 歴史文化
  - ・御庭に入る前の下之御庭の役割の違いなど
  - ・奉神門の中、御庭の特別な空間とは

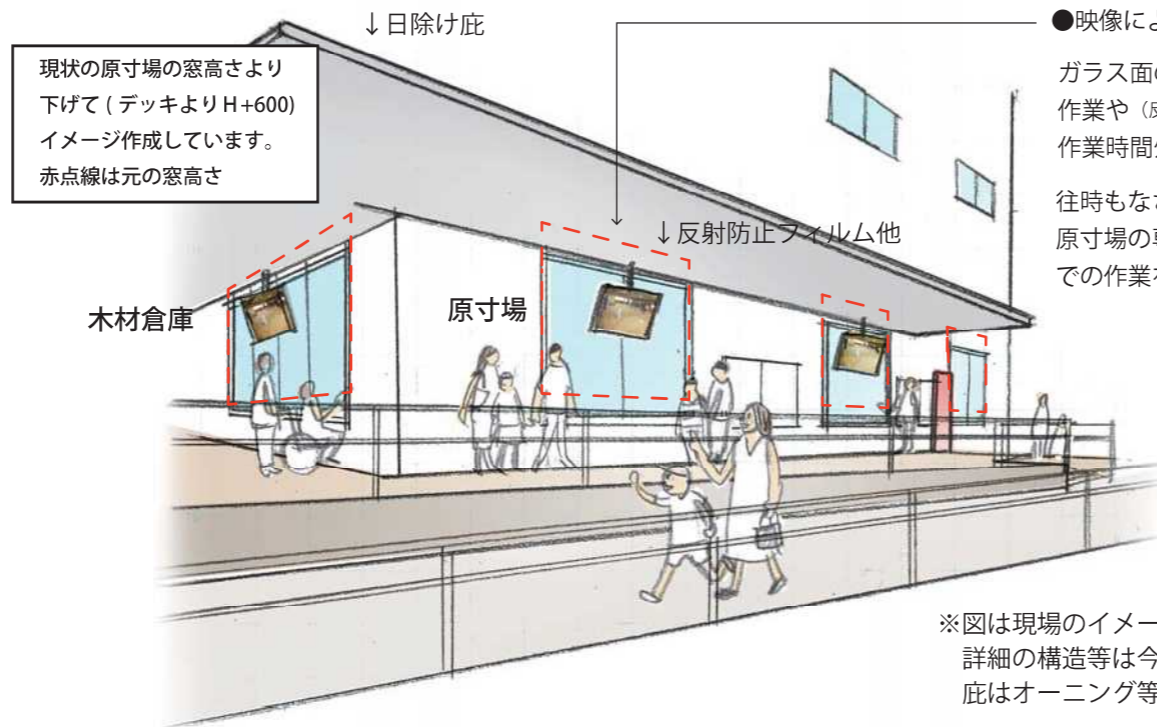
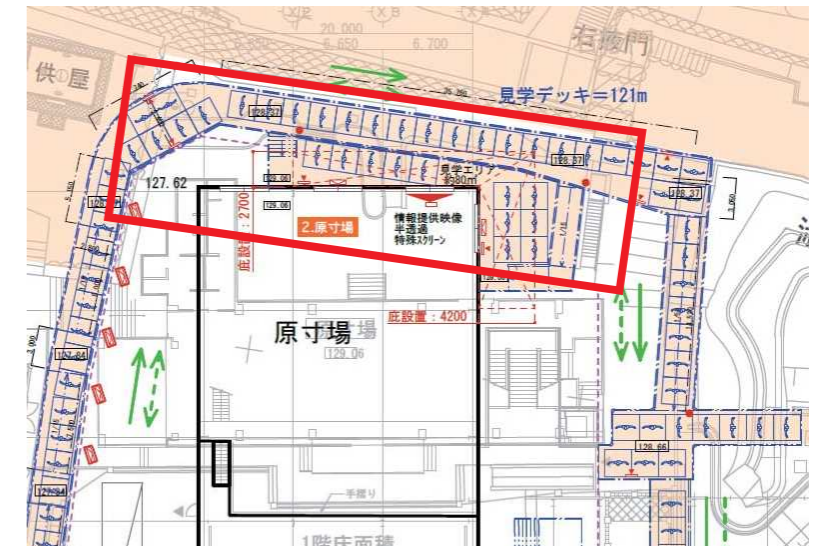
復興の見学に必要な事前情報を提供し、より充実した見学をしてもらうための場

R3年10月～R4年3月時点の計画を継続

2. 原寸場ゾーン

- 提供コンテンツ
- 2-A 原寸場、倉庫**
  - ・原寸場の作業内容
  - ・原寸図とは
  - ・規矩術、粗どりの技とは
  - ・工事の見どころ紹介
- 2-B 周辺の眺望**
  - ・16・17世紀の町並み
  - ・往時の円鑑池、円覚寺のある眺望
- 歴史文化
  - ・政治の中心、御庭という特別な空間の役割
  - ・御庭の世界観を支えた匠の技術、往時の職人や宮中で働く人々について

通路・たまりの空間に応じた手法で原寸場、倉庫等に関心を高める情報を提供  
現代に受け継がれる首里城の伝統技術から、往時の人々やその営みに関心が高まる情報を提供



現状の原寸場の窓高さより下げて (デッキよりH+600) イメージ作成しています。赤点線は元の窓高さ

●映像による紹介について  
ガラス面の反射などで窓から見えにくい作業や (反射防止フィルム等でも対応)、作業時間外の見学にも対応できる。  
往時もなされていたであろう、原寸場の専門的な仕事ぶりや、木材倉庫での作業を臨場感をもって解説提供。

※図は現場のイメージ。詳細の構造等は今後検討。底はオーニング等を建築にて検討中。

「原寸場」：匠の技 (規矩術など) を紹介



「木材倉庫」：木にまつわる匠の技術を紹介。時間をかけて、木の癖を読み取り、適材適所を選び加工する (写真は平城宮跡 原寸場作業)



伝統的な技と、現代の技術が融合した復元の様子を分かり易く紹介 (写真は平城宮跡国営公園)

※写真は現場のイメージ

3. 覆屋・素屋根ゾーン

- 提供コンテンツ
- 3-A. 眺望**
  - ・現場の眺望
  - ・素屋根工事の内容
- 3-B. 遺構見学**
  - ・世界遺産としての遺構の価値
  - ・過去5回の火災の軌跡
- 歴史文化
  - ・政治の表舞台である正殿の基本構造や役割などを解説

この時にしか見られない遺構 (世界遺産) の価値や見どころ、眺望を楽しませる情報を提供する

4. 深め楽しむゾーン

- 提供コンテンツ
- 4-A. 世誇殿**
  - ・首里城 VR 体験
  - ・首里城正殿から見る琉球王国の姿
  - ・後之御庭の役割
- 4-B. 復興展示室**
  - ・火災後の復興のあゆみ
  - ・焼失前の正殿
  - ・残存物展示
  - ・ショップ
- 4-C. 女官居室**
  - ・休憩
  - ・ショップ
  - ・呈茶サービス
  - ・イートイン

歴史文化に触れる、復興を実感する、買う、食す等多様な「見せる復興」を楽しませ、再来園に誘う

R3年10月～R4年3月時点の計画を継続